

ボールクッション体験談（参考資料③）

集中力の欠陥/悪い姿勢に対する効果

7歳になる女兒は注意力に欠陥があり、なかなかイスに正しく座ることができませんでした。学校で彼女はイスの上に立ったり、机の上に寝そべってみたり、後ろを向いたり、常に落ち着きのない様子をみせていました。4か月前、学校がボールクッションを購入し、彼女を座らせたところ、彼女は落ち着きをみせ、以前と比較して大人しくイスに座ってられるようになりました。数日後には他の生徒の邪魔をすることなく、彼女はイスに座ってられるようになり、集中力が増したのは明らかでした。

いまでは彼女が机の上に寝そべったり、イスの上に立ったりすることはなく、彼女はクッションに助けられたと話しています。朝、教室にくると彼女は一番に席につきます。そしてコンピューターを使って遊ぶ時や他の場所で座る際は、クッションの付いている自分のイスを移動させて座っています。

集中力の欠陥/悪い姿勢に対する効果

ある6歳の女兒は筋緊張が弱いため、適切な姿勢保持が難しく言語療法に通っています。彼女は短時間でもイスに正しく座ることが難しい状態で、よく急にドスンと床に崩れ落ちることがありました。

ボールクッションを使い始めてからは、疲れてイスに沈み込んだりすることもなく、言語療法セッションの半分の時間はイスに座ってられるようになりました。

注意力の欠乏に対する効果

4歳の男児は幼稚園や家庭内で、座っている時と食事時の注意力のなさが問題視されていました。ところがボールクッションを使用するようになり、以前と比較してじっとイスに座ってられるようになりました。また足元にもボールクッションを敷いてみたところ、目の前の出来事に対して集中できるようになり、とても落ち着いた様子で取り組めるようになりました。

悪い姿勢/落ち着きのなさに対する効果

8歳になる男児は姿勢保持のための筋緊張の弱さと関節の過可動性のため、学校でイスに着席する場面、家庭で食事や宿題をする場面で、じっと座っていることが困難でした。男児は自分の上半身を支えるために、自分の机やクラスメイトの机に体を寝かせたり、食卓テーブルの上に寝そべったりしていました。彼は常に落ち着かない様子で、体を安定させるために不適切な姿勢をとっていました。

この男児の担当作業療法士がボールクッションを提供すると、短期間で彼の姿勢保持とイスに座る能力が向上しました。男児はボールクッションをととても気に入っています。いまでは彼の学校もボールクッションを購入し、家庭でも食事時や宿題の時間にクッションを使用しています。

落ち着きのなさに対する効果

ふたりのLD男児は関節の過可動性があり、異常に活発でした。小児作業療法士がふたりのおしりと足の下にボールクッションを敷くと、彼らの座る姿勢、イスに座る能力、そして集中力に驚くほどの改善がみられました。今では学校でもボールクッションを購入し、食事の時間やその他の集中力を要する活動の際に教室で活用しています。

過可動性関節に対する効果

6歳になる女兒は関節の過可動性、全身の関節への不快感、軽度の感覚統合障害が確認されていました。彼女は教室内でじっと座っていることがなかなかできませんでした。非常に疲れやすく、集中力に欠けており、よくイスの上に沈み込んでいました。ボールクッションを使用するようになってからは、イスに正しく座れるようになり、授業中も教師に対して注意を払うことができるまでに集中力が高まりました。またボールクッションを使ってバランスを取りながら座るトレーニングも行っています。

多動性に対する効果

身心ともに落ち着かない様子と集中力の欠陥からADHDと診断された10歳の男児は、教室内では自分のイス周りを動き回ったり、音を立てたりする行動で周囲に対して配慮することができませんでした。

いまはボールクッションのおかげで、以前よりも落ち着いた様子で、長時間イスに座っていただけるようになりました。また彼の集中力にも改善がみられ、室内で騒ぐレベルも軽減しました。じっとイスに座ることができるようになり、集中力を要する活動では常にボールクッションを使用しています。

バランス障害を持つ成人に対する効果

MS(多発性硬化症)をもつ45歳の女性はバランス感覚と細かい運動のためリハビリセンターへ通っています。また彼女は腰痛に悩んでいました。手のセラピーを行う20分間、この女性がボールクッションに座ってみたところ、腰痛が若干緩和されたと感じました。ボールクッションを使用することによって、ボールの柔軟性や動きが座位のバランスをとるトレーニングになっています。

